



石積っ子

教育目標 **さいごまでやりぬく子 からだをきたえる子 もとめて学び子 とを大切に**

坂本小だより 令和5年 12月号

児童数589名(24クラス)

坂本小HP <http://www.otsu.ed.jp/skmt/>

【校長 上畠 恵一】

12月10日は「世界人権デー」

今年も12/4~12/10は人権週間 ~『「誰か」のことじゃない』~

毎年、人権週間が近づくと、随分と以前(私が30歳代の頃に『私の宝物』というテーマで書いた文章を思い出します。思い出しながらその宝物は今でも私にとっての宝物であり続けているかを確認しています。

その『私の宝物』というのは“決して人を嫌いにならない心”です。自分で言うのも変ですが、以前の私は結構わがままを通しながら好き勝手に生きていたタイプだと思います。周囲の言うことには耳を貸さずに自分が思ったことは無理を押してでもやるタイプでした。今ほど柔らかか?ではなかったと思うので、よく職場の先輩や上司、サッカーの指導者仲間などと口論になりました。大変エネルギーが尽きた時期だったので、思いついたら絶対で、誰が反対しようが論破することで自分の思いを正当化して実現させようと粋がっていたのでしょう。思いを通すために周囲とよく喧嘩していたということです。

それでも、どんな相手であっても決して嫌いだとか憎いだとかという感情を抱いたことはありませんでした。時間を忘れて延々と口論になっても、お酒の勢いでつい手が出たりものを投げつけたりしてしまったとしても、不思議と終わった後は普通に(普通以上かも)仲良く会話できました。やり合っていた相手のことを決して嫌いにならなかったわけです。それが当時の私の唯一(?)の長所だと思っていました。つまり宝物だったわけです。

何かを興ずるときに誰かと意見をぶつけ合うこと、出し合うことは大切です。でも、思い通りにならなかった相手に対して負のイメージを持ったり、悪い評価をしたりしないことが根本になければなりません。ラグビーの試合中にスクラムの中で殴り合っている、激しいタックルで痛い目に遭わされても、終了のホイッスルと共に「ノーサイド」を迎えるのと同じようなのかも知れません。

昔に比べて今の時代の人権のテーマにはあらゆるものが含まれるようになりました。長い時間をかけてこれまでの(おかしな?)普通が疑問視されて新たな感覚が普通になってきています。あらゆる違いを認めること、受け入れること、リスペクトするということが、人の中で人として人と共に生きる上で不可欠です。私自身が特に人権感覚に優れているとは思いませんが、例え誰であっても例え何があっても決して人を嫌いにならない心だけは持ち続けようと思っています。

それが『自分大好き 友だち大好き さかもと大好き』の原点です。



お家で子どもをどう支える?

先日の日吉ブロック合同学校保健委員会で、スクールカウンセラーの大平雅美先生のお話を伺いました。お家で子ども達にどう声かけすればよいのかということを保護者の身になって話してくださいました。大変よいお話だったので紙面を借りてキーワードを中心に少しだけ紹介させていただきます。

〈最近の子ども達の様子について思うこと〉

- 完璧主義ゆえに自己肯定感が低い
- 失敗したくない。まあいいかと気楽に考えられない
- 自分で決められない
=誰かを頼って失敗したらその人のせいに…
- 1人ぼっちなことを何より嫌う
- 空気を読むことに必死で周囲から浮かないよう行動する

〈各自スマホの時代の子ども達から思うこと〉

- みんなで一緒にいても一人ひとり違うものをみている
- 選択肢が多く好きなものが人と被らない
=共有しない 順番を待たなくてもいい
- いつでも手にして触れられるので暇な時間がない
=ぼうっとおしゃべりしている時間がない
- 刺激に慣れすぎて、自ら想像して遊べない
- 当然持つはずの好奇心よりYouTubeに関心

このような自己肯定感が育ちにくい環境にある子どもの変化に気づき子どもを支えるには…

- しゃべりたいときにしゃべりたいことしかしゃべらない子どもにしゃべってくれる環境をつくる
 - 一緒にのんびり過ごす時間や何かを一緒にする時間を持つ
 - 親のイライラをぶつけず、余裕を持って声をかけ、否定・非難を避け、安心感を持たせる
 - 日頃接することができる短い貴重な時間を有効に使う
- 親からの声かけは子どもから話を聞くためのきっかけ
 - 早わかりしすぎず、子ども自身に言葉にしろ
 - 子どもが話を続けやすい相づちをうちながら、アドバイスや叱責よりもまず共感(同じように喜び・驚く・悲しむ…)
 - 自分のことは自分で精神で、家族にあれこれやってあげすぎない

※ これらの話は、お家にあてはまるだけでなく学校でも大事にしたいポイントでした。まさに、学校だけ、家庭だけ、地域だけでなく、それぞれが協働で子ども達を見守り育む必要がある今の世の中にマッチしたよいお話でした。

<12月1月の主な学校行事 12/1 現在>

今後変更になることもありますので各学年の通信等でお確かめください。



ふれあいの11月

<5・5交流で園児の活動をサポートする>



今年2回目の『5・5交流』はひと味違ったものになりました。“小学校に招待して楽しませてあげる”ではなく、恒例の年長児八王子山登山と一緒に登って園児の達成感を共有したり、園で今流行りの遊びと一緒にやりながら楽しさの輪を広げたりするなど、“園児主体の活動をサポートしながら交流する”というものです。来年には6年生として新1年生を迎える準備が既に始まっています。かわいい1年生にいろいろとお世話してあげるだけでなく、年長として育んだたくましい1年生の自立をサポートする6年生であってほしいと思っています。



<ふれあいルームという居場所>

新型コロナ期に途絶えていた『ふれあいルーム』が復活しました。運動会明けからプレオープンを経て、少しずつ元のような形への予定です。地域の方々にサポートしていただいているこの活動は、休み時間がさみしい時間にならず、温かな居場所をつくってほっとする時間になるようにとの思いから、当時のふれあい委員会の子たちと地域のサポーターの方々が始めてくださったものです。来たる12月8日には地域の畳屋さんのご厚意で真新しい畳が敷かれて部屋がリニューアルする予定です。これから益々、地域の方や委員会の子たちと一緒にふれあいながらゆったりとした時間を過ごせる居場所になればと思います。



<職場体験に来てくれています>



日吉中学校2年生の生徒がキャリア教育の一つ『職場体験』で本校に来ています。授業のサポートや給食の配膳補助をしたり、休み時間に子ども達と一緒に遊んでくれたり、時には花壇やブラントーの土交換の作業をしたりしながら子ども達や職員とのふれあいをしています。2年前には小学生だった彼らがたった2年で随分と大人っぽくなり、仕事の体験を通して、しっかり時間を守ろうと意識したり、礼儀正しくあいさつを交わしたり、にこやかな表情で周りに接したりすることの大切さを学んでいます。あらためて、子ども達が過ごす時間は我々のそれと比べものにならないほど大きいと感じさせられました。